

令和7年度進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 1 子どもたちに輝く未来をつなぐ

主要課題	No. 6	新しい時代の「学力」向上
------	-------	--------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ● 主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。

4年後の 目指す姿	児童・生徒が、グローバル化や情報化等による社会の変化に対応するための力や、課題に向き合い、解決する力を身に付けている。
計画期間 の方向性	○グローバル社会で必要とされる能力の育成 児童・生徒が英語を実際に使う機会を増やすとともに、児童・生徒の学習意欲と英語力の向上に取り組むほか、教員の指導力を向上させることにより、「話す力」等のコミュニケーション能力の育成を図ります。 ○Society5.0時代を見据えた教育の推進 Society5.0時代の到来を見据え、個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、ICTの効果的な活用など、教育の質の向上を図るとともに、従来の指導方法にとらわれない、新しい授業スタイルを創造します。

事業費（令和6年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績）	戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。
------------------------------	--

戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。

事業番号	事業名称		所管課	事業の持つ役割							事業費(千円)
28	英語力向上推進事業		教育指導課	子どもたちの英語力を向上させる。							160, 771千円
											(167, 671千円)
	主な取組実績			単位	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	
	① 外国人英語指導員の配置			人	25	24	25				
	② 英検の全額補助に伴う受験者（中学校）			人	1, 950	1, 955	1, 965				
	③ 英語体験施設（T G G）の参加校（小中学校）			校	30	30	30				
	④ GTEC Junior受験料全額補助に伴う受検者数（小5・6）			人	1, 498	3, 058	3, 249				
R5 (2023)	外国人英語指導員との交流やT G Gの参加で外国人と触れ合う機会を多く設定いたしました。また、令和5年度は小学校でGTEC Juniorを5年生にも拡大し、英語力を経年変化で測るための機会を作り、日々の授業での英語力向上を図りました。										
R6 (2024)	GTEC Juniorの経年変化を見ると、発信する力（話す力・書く力）よりも受信する力（聞く力・読む力）の点数の微減が見られました。										
29	「話す力」向上プログラム事業		教育指導課	子どもたちのコミュニケーション能力を育成する。							3, 080千円
											(3, 080千円)
	主な取組実績										
	R5 (2023)	委託事業者が8校の小・中学校に出向き、出前授業を行うことで、児童・生徒のプレゼンテーション能力の向上を図りました。									
R6 (2024)	区内小学校1校、中学校1校にモデル校を設置し、委託業者の出前授業や教員研修等の支援を受けながら、児童・生徒の「話す力」を向上させるための授業実践を行い、区内小・中学校の教員に公開しました。また、各校の担当教員に研修を実施しました。										
30	教育情報ネットワーク環境整備（幼・小・中）		学務課	子どもたちの情報活用能力を育成する。							3, 110, 358千円
											(3, 158, 812千円)
	主な取組実績										
	R5 (2023)	GIGAスクール構想以前に整備された端末の更新を行いました。（児童用タブレット：2, 332台、生徒用タブレット：2, 681台）									
R6 (2024)	7年度にリース期間満了を迎える児童用タブレットの更新に向け、事業者からの情報収集や学校現場への状況確認を実施し、仕様の検討を行いました。また、学習系ネットワークの通信環境を分析するため、ネットワークアセスメントを実施しました。										

31	教員研修・研究事業		教育センター	教員の資質・能力を向上させる。					15,609千円	
									(27,115千円)	
	主な取組実績			単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 教育課題研修参加者（延べ）			人	1,083	998	952			
	② 教育アドバイザー派遣（延べ）			回	191	268	280			
	R5(2023)	教育に求められる教師像が教員としての普遍的な資質の素地であることを踏まえ、児童・生徒の成長段階に応じて求められる役割や身に付けるべき力等を自覚し、資質の向上に努めることができるよう取り組んでいます。								
R6(2024)	教育に求められる教師像が教員としての普遍的な資質の素地であることを踏まえ、研修の内容及び種類の最適化に努め、効果的かつ効率的な研修体系を構築しています。これにより、児童・生徒の成長段階に応じて教員に求められる役割や身に付けるべき力等を教員が自覚し、教員が本質的な資質向上に集中できる環境づくりに取り組んでいます。									
32	「Society5.0の教室」プロジェクト		教育指導課	ＩＣＴ環境を活用し、子どもたちの新たな学びを推進する。					120,563千円	
									(120,608千円)	
	主な取組実績			単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
	① 「Society5.0の教室」推進委員会全体会の実施			回	3	3	3			
	② 「Society5.0の教室」推進委員会による実践授業			回	50	40	40			
	③ 「Society5.0の教室」通信の発行			回	22	23	24			
R5(2023)	各学校の情報担当が最新のＩＣＴ教育の実践を学ぶことができるよう研修会を実施してきました。また、各校の実践を共有することができる仕組みを作り、日々の実践につながるようにしてきました。									
R6(2024)	各学校の情報担当が最新のＩＣＴ教育の情報や実践を学ぶことができるよう研修会を実施してきました。また、各校が１人１台端末等を含むＩＣＴ教育の実践を共有することができる仕組みを活用し、日々の授業改善と児童・生徒の情報活用能力の育成につながるようにしてきました。									
●特記事項（実績の補足）										
行財政運営の視点				取組実績						
行財政運営	スクールサポートスタッフ、日本語指導員、時間講師等の活用により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、教員の長時間労働の改善に取り組みます。			学校において各種人材を活用することにより、幼児、児童・生徒の教育的ニーズに合わせた指導や支援を行うことができました。また、教員の在校時間短縮のための仕事の平準化や見直しを進めるとともに、部活動の地域連携について、関係部署と連携し検討会を実施しました。						

2 社会ではどのような動きがあったか
(社会環境等の変化)

人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。

チェック	チェック項目
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）
有	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）

「GIGA スクール構想第2期」とは、「公立学校情報機器整備事業費補助金交付要綱」（令和6年1月29日文科科学大臣決定）等に基づき端末が整備・更新されることとなる6年度から10年度を指します。
将来の予測が困難であり、更にグローバル化が進んだ社会において、子どもたちが、探究心をもち、世界を理解し、持続可能な社会及び平和な世界を築くことに貢献できる資質・能力を育む必要が生じているため、国際バカロレア機構と相互協力に関する覚書を締結しました。

3 成果や課題は何か（点検・分析）

1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。

○グローバル社会で必要とされる能力の育成

英語力向上推進事業により、児童・生徒が実践的に英語を使う機会が増えるとともに、英語を学ぶ意欲の向上につながっています。特に、GTECで実施した小学校6年生のアンケートでは、「英語の授業や活動の時間は楽しいですか。」という質問に肯定的な回答が74.7%ありました。

GTEC Juniorの経年変化を分析したところ、発信する力（話す力・書く力）よりも受信する力（聞く力・読む力）の点数が微減していたため、今後は聞く力と読む力に課題を定め、指導改善を図っていきます。

中学校3年生では73.2%の生徒が英検3級相当以上を取得しており、意欲的に英語学習に取り組んでいます。

「話す力」向上プログラム事業では、児童・生徒が社会に出るうえで重視される「人前で話す力」の向上を目指し、モデル校での実践研究や教員研修を行いました。モデル校の研究授業の参観や教員研修を通して、教員が児童・生徒の「話す力」を向上させる指導方法について理解し、教員自身の授業に取り入れることができました。授業中に自信をもって自分の考えを伝えている姿を学校訪問する中で確認することができ、児童・生徒の「話す力」の向上につながっていると考えます。

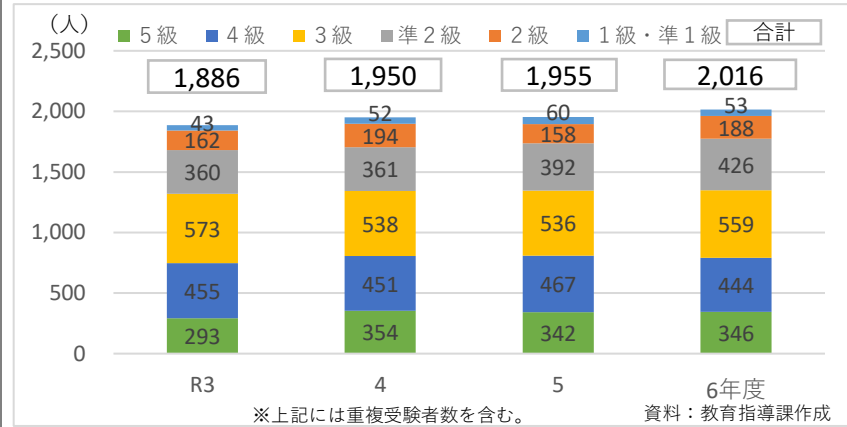
国際バカロレア機構と相互協力に関する覚書を締結するとともに、国際バカロレア機構と共催で「これからの教育を考えるシンポジウム」を実施します。また、国際バカロレア機構が開発した教員研修を実施します。

○Society5.0時代を見据えた教育の推進

I C T支援員の増員を図るとともに、各校の実践を教員間で共有することで、授業での効果的な児童・生徒用タブレット端末の活用を推進することができました。

国が進めるGIGAスクール構想に基づき整備した1人1台のタブレット端末を、現在及び将来の学習形態に合わせ、駆動時間や動作環境に配慮した上で、令和7年度中に更新します。また、更なる学習環境の向上のため、令和6年度に実施したネットワークアセスメントに基づき、インターネットサービス（プロバイダー）の更新を行う必要があります。

●区立中学校英検受験者数



【SDGsの視点】

4 質の高い教育をみんなに

GTEC Juniorの経年変化を分析し課題を洗い出すことで、英語に触れあう教育活動の質を上げるとともに、ネットワークアセスメントを実施し校内におけるI C Tの学習環境を向上させる等の取り組みを積極的に進めたことで、無償かつ公正で質の高い教育を受けることができるような包括的、効果的な学習環境を提供しました。

4 今後どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。

英語力推進事業については、GTEC Juniorの結果から得られた第5学年、第6学年の経年変化の分析を丁寧に行った上で課題が明確となりましたので、その課題解決のための授業改善が必要になってまいります。また、「話す力」向上プログラム事業については、児童・生徒のプレゼンテーション能力をより向上させるために、プレゼンテーションにかかわる新しいアプリを導入し、効果的な活用方法を研究してまいります。

国際バカロレア機構が文京区のためにアレンジしたプログラムにて教員研修を実施し、今の指導観を見直し、現状の枠組みの中でできることを考え、国際バカロレアの知見を活用し、子どもたちに還元していきます。